



大人の理科コース

生き物にフォーカス! 〜生物の生息地と私たちの生活の関係を考える〜

私たちの身の回りの動植物や海洋生物、微生物 に着目し、それぞれの生態を知るとともに、人と 生物との関わり方について学びました。





くまもとの生物多様性 ~固有種と外来種の混在~

熊本大学大学院 特任教授 **西野 宏** 先生

生物多様性とは? という 話から、種の保存法、熊本の希 少な動物、外来種について、多 種多様な熊本の生物の、様々な 問題について解説されました。





くまもとの植物 ~「人間 野草 草原」阿蘇を例に~

認定NPO法人阿蘇花野協会專務理事 瀬井 純雄 先生

ハナシノブと深く関わる瀬井先生。人の暮らしで変わった植物の世界に、人が手を加えることで、悠久の草原が再生。その取組について学びました。



第5回

ヒトと微生物 ~有用?有害?細菌、菌類、ウイルス…~

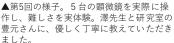
熊本大学大学院 教授 深 知 ※

澤 智裕 先生

細菌学の歴史から、細菌とウイルス、私たちの体に住み着く微生物について学びました。耐性菌による死亡を防ぐ澤研究室の取組紹介や、顕微鏡に触れる実技も好評でした。







第2回

動物相から見たくまもとの自然 ~その変遷と現状~

NPO法人 バードリサーチ会員 **坂梨 仁彦** 先生

「かつては、羽を広げると畳一枚ほどもあるイヌワシが熊本県にも生息していた。」1950年頃の立田山の鳥類相や菊池渓谷の30年間に渡る鳥類相の変遷などを例に、熊本県の鳥類相について紹介されました。



第4回

くまもとの海辺の生きものたち 〜生物多様性と保全対策〜

ひのくにベントス研究所 所長

森 敬介 先生

潮位差が4~6mある有明・八 代の海辺は、希少な生き物を育 む、全国的にも特別な場所。調 査の実例や、希少種・沿岸環境 保護対策について話されました。





▲第4回の様子。海の底で生活する底生生物を「ベントス」というそうです。生物コースでは、プロジェクターの画像も多彩でした。

受講生の感想

- ・「今日は講義があるので、出掛ける日」と思うと気分がシャキッとし、一日が有効に過ごせて元気が 出ます。生活のリズム作りにしています。今後共よろしくお願いします。有難うございました。
- ・初めて聞くような話も出て良かったです。特に最終講義の顕微鏡で見る学習は良かったです!
- ・大人の理科で自然環境の保全の大切さ、大変さに気づくことができました。意識の高い人が取り組んでいますが、市民、町民、村民などに広く周知され地域全体の取組にしていって欲しいです。